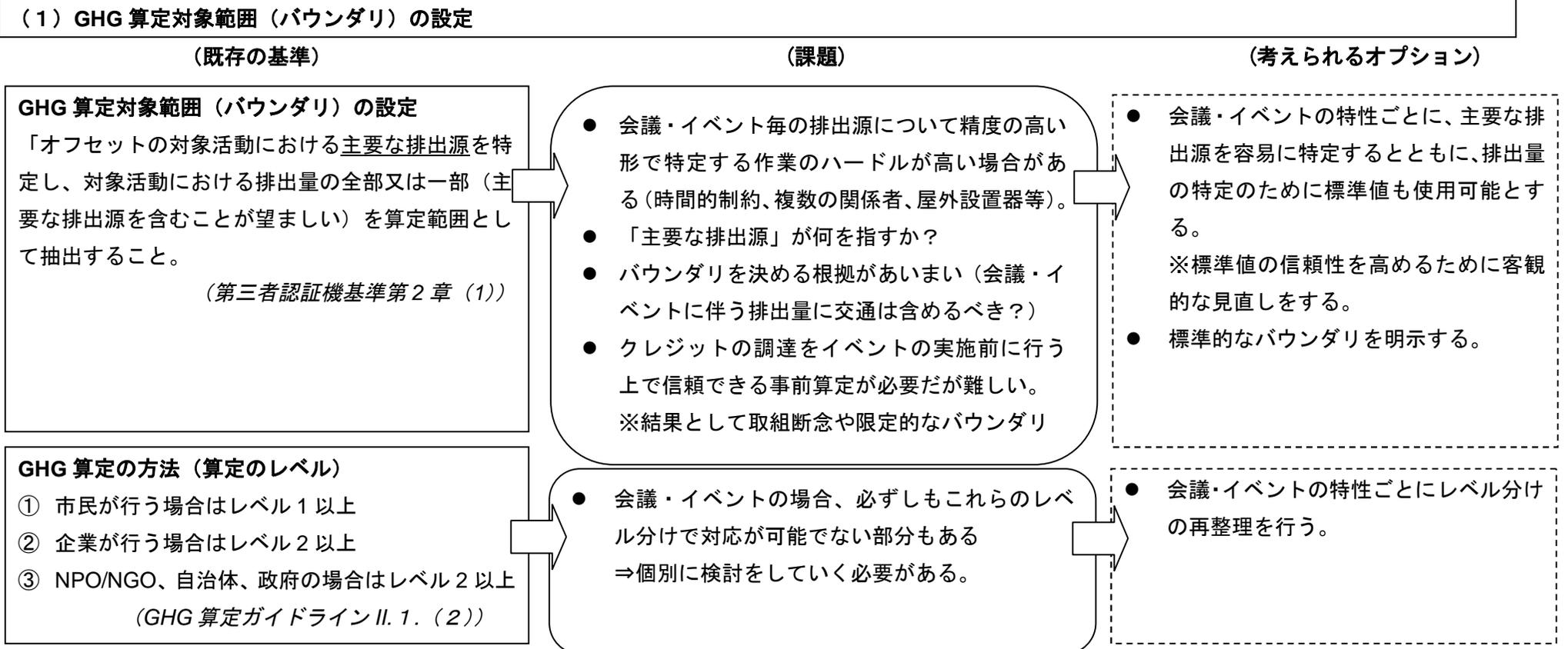


## 会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの基準に関する論点について

会議・イベントにおけるカーボン・オフセットの基準に関する課題

カーボン・オフセットに関する既存の基準類の規定と会議・イベントにおけるオフセットの実行を照らし合わせると、次のような課題が明らかとなった。



### GHG 算定の方法（飛行機（国内旅客））

#### デシジョンツリーによるレベル分け

- a. 当該旅客 km の標準値を利用する。
- b. 当該旅客機の燃料消費率計算が入手できるか？
- c. 利用航空会社平均の燃料消費率が入手できるか？
- d. 国内平均の旅客気全体の燃料消費率の標準値を利用する
- e. 当該旅客のジェット燃料の排出係数が計算／入手できるか？
- f. ジェット燃料の国内標準係数を利用する。

(GHG 算定ガイドライン 1.III. (3))

- マイル数を用いた計算は、GHG 算定ガイドラインの表を用いることにより、標準値の計算は比較的平易に可能。  
ただし、当日の旅程変更（関係者）、旅程が不明な移動（不特定多数一般参加者）などで固有値を求めることについては、不可能となる場合もある（場合によってはレベル 2 の達成が困難）。
- 「関係者」の定義があいまい

- 会議・イベントの特性ごとに、関係者・不特定多数の一般参加者に応じた標準値も使用可能とする。  
※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。
- 「関係者」の範囲を明示する。

### GHG 算定の方法（飛行機（国際旅客））

国際旅客については、特段の規定なし。

- 第三者認証機関認証基準にいう「主要な排出源を特定」からして、国際旅客の算定は必須と考えられるが、参照する情報源が明示されていない（国内旅客の参照情報源として ICAO があるため、多くの場合これを援用している）。
- 当日の旅程変更（関係者）、旅程が不明な移動（不特定多数一般参加者）に加え、セキュリティ上の理由から固有値を求めることが不可能となる場合もある（場合によってはレベル 2 の達成が困難）。
- 「関係者」の定義があいまい

- 会議・イベントの特性ごとに、関係者・不特定多数の一般参加者に応じた標準値も使用可能とする。  
※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。
- 「関係者」の範囲を明示する。

### GHG 算定の方法（旅客鉄道）

#### デシジョンツリーによるレベル分け

- a. 当該旅客の移動距離を把握する。
- b. 当該旅客が乗車した車両タイプの燃料消費率が計算／入手可能か？
- c. 当該旅客が乗車した鉄道会社の燃料消費量比率が計算／入手可能か？
- d. 鉄道会社全体の平均燃料消費率を利用する。
- e. 当該顧客が乗車した鉄道会社の動力・燃料の平均排出係数を利用した動力・燃料の全国平均標準排出係数を利用する。

(GHG 算定ガイドライン III.2. (3))

- 関係者の移動については、事前の算定がある程度平易に可能であるが、一般参加者移動（主要排出源の場合もあり）による排出については、事前の算定の想定が困難な場合もある。
- 事後の算定についても、特に、不特定多数の一般参加者のトレースが極めて困難なケースが多い（場合によってはレベル2の達成が困難）。
- 「関係者」の定義があいまい

- 会議・イベントの特性ごとに、関係者・不特定参加者に応じた標準値も使用可能とする。  
※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。  
「関係者」の範囲を明示する。

### GHG 算定の方法（自動車）

#### デシジョンツリーによるレベル分け

- a. 当該自動車の一定期間の使用燃料タイプ及び使用料がわかるか。
- b. 当該自動車の一定期間の走行距離がわかるか？
- c. 国内の乗用車／業務用車両の平均走行距離の標準値を利用
- d. 当該車種の燃料消費率がわかるか（実走行燃費）。
- e. 省エネ法に基づく車両重要区分ごとの燃料基準値を利用する。
- f. 温対法に基づく使用燃料の単位発熱量を利用する。
- g. 温対法に基づく使用燃料の排出係数を利用する

(GHG 算定ガイドライン III.3. (3))

- 関係者の移動・一般参加者移動による排出については、事前の算定の想定が困難な場合もある。
- 事後の算定についても、特に、不特定多数の一般参加者のトレースが極めて困難なケースが多い
- 当日の旅程変更（関係者）、旅程が不明な移動（不特定多数一般参加者）に加え、セキュリティ上の理由から固有値を求めることが不可能となる場合もある（場合によってはレベル2の達成が困難）。
- 「関係者」の定義があいまい

- 会議・イベントの特性ごとに、関係者・不特定多数の一般参加者に応じた標準値も使用可能とする。  
※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。  
「関係者」の範囲を明示する。

### GHG 算定の方法（会場のエネルギー使用量）

会場のエネルギー使用量については、特段の規定なし。

- 一般的な実行としては、電力使用量の過去実績（事前算定）と当該使用実績（事後算定）を用いることが多いが、多くの場合は施設の一部を使用することから、全体面積から案分を行うケースが多い。
  - ① 屋内の場合、一部、実データにアクセスできないことがある。
  - ② 屋外の場合、準備撤収の段階のエネルギー使用量の把握が困難なこともある。

- 会議・イベントの特性ごとに、標準値も使用可能とする。
- ※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。

### GHG 算定の方法（廃棄物からの排出）

廃棄物からの排出については、「6. 家庭：総 GHG 排出量（付表 3 その他の排出係数）」として「一般廃棄物（一般廃棄物の焼却時に発生する CO2 排出量）」について記載。

(GHG 算定ガイドライン III. 6.)

- 「一般廃棄物」（焼却処分）を標準値として用いると考えるよいか？

- 会議・イベントの特性ごとに、標準値も使用可能とする。  
※標準値の信頼性を高めるために客観的な見直しをする。  
※「関係者」の範囲を明示する。

## (2) 情報提供

### (既存の基準)

P42「表8 インターネット等の通信販売におけるチケット販売の情報提供事項一覧」においては、チケット販売時にオフセット情報を提供するように求めている。

(情報提供ガイドライン第4章.1.)

### (課題)

- チケット販売のタイミングにおいて、オフセット実施が想定されていない場合もあり、事前に情報が提供できない場合もある(算定・クレジット内容が明確になっていないなど)。
- 通常、チケット販売等の流通経路が多岐にわたるため、オフセット等に関する情報がチケット等に印刷できないこともある。

### (考えられるオプション)

- 企画・準備段階から余裕をもって情報提供の漏れがおきないようにガイドライン上で段階に応じた解説を行う。
- 簡易な情報提供方法の事例を提供する。  
※カーボン・オフセットイベントである旨、および関連URLを掲載するなど。
- イベント後に情報提供事項について認証センターに事後報告する。  
※大きな違反があった場合は、参加者・関係者への訂正情報を流す。

認証マークを取得後の名称使用規定

認証マークの取得後、宣伝広告媒体に変更が出た場合、時間的な対応が極めて困難(イベント開催スケジュールと、関係者調整、変更申請のタイミングが合わないことが多い)。

- イベント開催後に情報提供事項について認証センターに事後報告する。  
※大きな違反があった場合は、参加者・関係者への訂正情報を流す。